

「世界青年の船に乗船」(加門 夏子)

GMS学部3年の加門夏子さんは、内閣府の国際交流プログラムである「世界青年の船」プログラムに参加し、世界13カ国の青年たちと一緒に巨大客船に乗りこみました(注:このようなタイプの研修も、GMSの「海外演習実践講座」の授業単位として認定されます)。

加門さんはこの船で41日間を他の参加者達と共に過ごすわけですが、船内では、ディスカッション、クラブ活動、委員会活動、セミナー、自主活動等様々な交流プログラムに参加してきました。また船は途中フィジー、オーストラリア、バヌアツ共和国、ソロモン諸島等に寄港し、加門さん達は各地を訪問したり、パーティーなどを行ったりしました。

以下は、加門さんにお聞きした内容です。

Q1. 海外研修のきっかけは何でしたか?また、なぜたくさんある海外研修プログラムや研修地の中で「世界青年の船」プログラムに参加することを決めたのですか?

きっかけは、ゼミの先生(注:GMS各務洋子教授)からの紹介でした。私自身世界を見ることが好きで、その前にもよく海外で一人旅をしていました。しかし、このプログラムは一度に13カ国もの人々との共同生活を送りながらの船旅という初めての経験でした。そして、国を代表するという経験はなかなか出来るものではないと考えたため、挑戦を決意しました。

Q2. 渡航前の準備として、何かしたことはありますか?

出港の4カ月ほど前に、日本人参加者が参加する研修が国内でありました。そこであらかじめ決めた自主活動の準備を行ったり、参加国についての知識を深めるよう心がけたりしました。

Q3. 今回の研修に費やした費用は、いくらくらいですか?

渡航費、事前研修、事後活動団体への入会金等全て含めて25万程度です。研修日数の長さや研修内容のスケールの大きさから考えるととてもこの額でおさまるはずはないのですが、内閣府の国際交流事業なので、ほとんど税金で負担して頂きました。身が引き締まる思いです(笑)。

Q4. 船内では、どのようなところに寝泊まりしていたのですか? また、食事は口に合いましたか?

3人一部屋で、船内のキャビンで暮らしていました。食事は毎食船内のダイニングでのバイキ

ングで、日本人向けの味付けでとっても美味しかったです！ただ他国の参加青年の中には食事が口に合わず、大変な思いをしている方もいました。



Q5. 船上や寄港地では、どのようなスケジュールで毎日を過ごしていたのですか？

船内での生活は、まるで学校のような感じでした。午前中は、コースディスカッションや国連セミナーなどのアカデミックなプログラムを行いました。午後は、各々が選んだクラブ活動や委員会、参加青年自らが開催するセミナー、各国ごとの大掛かりなプレゼンテーションなど多種多様なプログラムを行いました。また空いた時間にはたくさんの自主活動があちこちで開催され、大忙しでした！

寄港地では、村や小学校、NGO機関といった様々な場所を訪問し、オーストラリアではライフセービング体験も行いました。一番驚いたことは、船上での歓迎パーティーにてフィジーの大統領にお会いできたことです！

Q6. 一緒にプログラムに参加した仲間には、どんな人達がいましたか？

日本人参加青年は、よくもまあこんなにアクティブな人達を全国から集めたなという印象で、皆熱かったですね。海外参加青年も、様々な選抜を突破して参加しているだけあって優秀な人が集まっているなという印象でした。オーストラリアの最年少国会議員やバーレーンのコンサルタント、フィジーの教師やブラジルの学生など、本当に多種多様な立場の人がいました。皆個性的で、意見をしっかり持ってそれを伝える姿勢の持ち主でした。



Q7. 現地での心温まるエピソード等ありますか？

ソロモン諸島にて、フリータイムの時間一人でふらふらしていたのですが、そこでひとりの現地の人に話しかけられ一緒に歩いていました。そこでまた歩き始めるとその友達が一緒加わり、また少し歩くとその友達に声をかけられ、その弟が加わり・・・と繰り返している中でそれぞれの国の違いや家族のことなどたくさんの事を話しました。そして彼らは私を船まで送ってくれ、最後に、「俺に子どもができれば、夏子って名づけるよ！！」なんて言って泣きながら見送ってくれたのです。島の温かさを感じた瞬間でした。また彼ら会う日は遠いかもしれないし、もうないのかもしれませんが、私は絶対にあの日の出来事を忘れないと思います。

Q8. 現地で受けたカルチャーショックは、何かありますか？

フィジーにて、初めて飲んだカバという飲み物です。カバという名前の木の根を水に漬け、素手でこねくり回してでた汁を飲むというものです。太平洋諸国にある飲み物のようなのですが、儀式的のときに飲まれる伝統な飲み物で、見た目は完全に泥水です（笑）。

この飲み物は皆で回し飲みをするもので、しかも残してはいけないとのことでした。私も覚悟を決めて飲んだのですが、なんともいえない味がしました。ちなみに鎮静効果があって、なんだかホットするのがまた不思議です。ぜひ、挑戦してみてください！

Q9. 今回の研修は、加門さんの大学生活や今後の人生においてどのように生きてくると思いますか) ?

今回の研修で出会った仲間達のネットワークは大きいと感じています。世界中に同じ船に乗った仲間がいるので、今度はみんなに世界一周がてら会いに行きたいと考えています。日本人参加青年に関しても同様で、「同じ国にこんなに頑張っている人がたくさんいる！」という事実は私のモチベーションにも繋がってくると思います。船での経験を生かして、これからもよりアクティブに生きていきたいと思っています！

Q10. 最後に、これから海外研修を行いたいと思っている人へのアドバイスやメッセージをお願いします。

私は、無駄な経験はないと思っています。何か気になることがあって、それが少し頑張れば実現できることなら今やるべきだし、あとでは通用しません。たった一回の自分の人生はいつ終わるかもわからないし、今この瞬間にも一分一秒は過ぎていきます。なにより、やらないで後悔するよりもやって後悔した方がいいし、平凡着実よりもわくわくする方がいいというのが私のポリシーです！何を選んで何を捨てるかは自分の気持ちに従って決めるべきですが、もし少しでもやりたい気持ちがあるのなら、是非挑戦してみてください！ (おわり)

